

《目次》	P1…大会長挨拶	P2～4…新会員紹介	P5…福島復興支援ツアー	P6～8…参加報告
	P9…病院紹介	P10～11…理事会報告・各局からのお知らせ	P12…編集後記	

山梨県言語聴覚士会第8回学術大会開催のご案内

大会長 中村 晴江
(甲府城南病院)

このたび、山梨県言語聴覚士会第8回学術大会を平成27年11月22日(日)に開催することとなりました。諸先輩方が作りあげてこられた山梨県言語聴覚士会学術大会の大会長を務めさせていただくことを大変光栄に存じております。

近年、言語聴覚士に対する期待とニーズは医療、教育、福祉にとどまらず、介護や保健の分野へ、また、従来の言語機能訓練から、摂食嚥下訓練、ICT技術を活かした訓練・代替手段の支援へと広がっています。そのうえで、超急性期でのリスク管理、回復期における専門的治療技術や生活に視点を置いた関わり、そして維持期や終末期でのより特化した関わりなど、それぞれのステージで求められる多岐に渡



った知識や治療技術の研鑽が要求されています。更に、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの中で、言語聴覚士としての専門性のみならず、他職種の専門性を理解し、連携をとりながら、地域(地域住民のつながり、地域の社会資源、地域包括支援センターとの連携など)に対して幅広いチーム医療・支援を行っていくチームメンバーとしての包括的なヒューマンスキルが求められています。

そこで本大会のテーマを「鍛える!!チーム医療で輝くSTの専門性」とし、このテーマを具体的に表現するプログラムとして、学術大会では初の試みとなる教育講演を企画いたしました。「摂食嚥下機能」「高次脳機能障害」ともに、より実践的な内容についてお話しいただき、皆様と臨床の醍醐味を味わいたいと思います。さらに特別講演ではチーム医療推進協議会のアドバイザーとして、チーム医療の推進にご尽力されておられる医療ジャーナリストの福原 麻希氏をお招きし、多職種協働の推進にむけ、幅広い視点から現状や課題についてお話しを伺いたいと思います。また、一般口演では、7名の先生方に日々の臨床の成果や課題について発表していただきます。

学術大会の主役は、あくまでも会員のみなさん自身です。本大会が、日頃の活動の成果や疑問を発信し、知識や技術のブラッシュアップを図るとともに、会員相互の交流やネットワークの充実の一助となることができまよう願っております。多くの会員の皆様のご参加とご協力を心よりお願いいたします。

最後になりましたが、本学術大会の開催にあたり、鋭意準備を進めていただいております実行委員の皆様へ深く感謝申し上げます。

平成27年度 新会員紹介



石和共立病院 大塚 由貴（おおつか ゆき）

今年から山梨県で言語聴覚士として働く事になりました。出身は新潟県です。大学の頃、小児分野の講義を受けて以来小児リハに携わりたいと強く考えるようになりました。進路に悩んでいる時に、山梨県で小児リハに携われるところがあると知り、迷わず山梨県に行こうと決めました。最初は慣れない環境に戸惑う事が多くありましたが、今は仕事に生きがいを感じる事が多くなりました。今後は自分自身のスキルアップの為に日々努力して頑張っていきたいと思っております。

石和共立病院 秦 亮太（はた りょうた）

出身は新潟県です。趣味はサッカーです。観戦も好きでよく観たりしています。旅行に行くことも好きで、車で色々な場所へ出かけています。働き始めて半年が経ち、言語聴覚士として今後の生活を見据えて訓練を実施していくという難しさを実感しています。しかし、「少しでも話してほしい」「何か食べたい」という本人や家族の思いに応えていきたいと意識を持ち、日々業務に励んでいます。



春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 石原 美桜（いしはら みお）

出身大学は栃木県の国際医療福祉大学で、出身地は山梨県です。やや人見知り気味ですが人と話をするのが大好きです。趣味は絵を描くことと歌うことで、高校から混声合唱(ソプラノ)をしていました。まだまだ未熟ではありますが、生まれ育ったこの山梨県で、言語聴覚士としても人としても成長できるように日々努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお祈りいたします。



恵信甲府病院 藤原 裕己（ふじはら ゆうき）

私は前職、介護の仕事に携わっており、大学生活から今年の春までの約10年間、県外で過ごしていました。今年の4月、入職するにあたって久々に、地元の山梨に戻ってきました。私自身、旅行など出かける事が好きなので、少し様変わりした山梨を散策したいと思っております。地元に戻りまだ半年ですが、やっぱり自然に囲まれた山梨は過ごしやすいです！仕事の方もまだ半年で、大変な事もありますが、これからも頑張っていきたいと思っております！



恵信甲府病院 坂本 楓（さかもと かえで）

はじめまして！突然ですが、私はとっても負けず嫌いです！先日とある研究の一環で、椅子に立ったり座ったりを繰り返して、脱落する先輩もいた中、20分やり抜く事ができました（翌日案の定、ひどい筋肉痛で起き上がる事ができませんでした）。負けず嫌いな点が私の強みだと思うので、今後もこの負けず嫌いを良い方に活かして日々の業務を頑張っていきたいと思っております。宜しくお願いいたします。



恵信りほく病院 芦澤 瀬奈（あしざわ せな）

4月から恵信りほく病院に勤務しております芦澤瀬奈と申します。よろしくお願い致します。実家は山梨県で、出身大学は国際医療福祉大学です。まだ言語聴覚士になって一年未満ですが、周りの先輩方から優しく指導していただいたり、研修会に参加する機会に恵まれたりと、日々仕事をしていくうえで励みになっています。



甲州リハビリテーション病院 山本 由里（やまもと ゆり）

東京都日野市から参りました。出身校は多摩リハビリテーション学院です。入学前は求人情報サイトの営業職をしており山梨県内も担当させていただき、県内の方々には大変お世話になっておりました。今後、会員の皆様のような立派な言語聴覚士になれるよう励んで参りますのでご指導ご鞭撻よろしくお願い致します



甲州リハビリテーション病院 武淵 絢子（たけふち あやこ）

出身地は、新潟県の南魚沼市という米どころです。大学も県内の新潟医療福祉大学に通っていました。他県で暮らすのは、今回が初めてです。山梨県の食べ物では、信玄餅が好きです。山梨県は、県土会活動が盛んだと新潟でも有名でした。少しでも早く皆様のように立派に活躍できるよう精進していきますので、宜しくお願い致します。



甲府公立病院 北澤 萌（きたざわ もえ）

群馬県安中市出身です。登山が好きで、里山から3000m級の山まで様々な山がそろう山梨県に就職を機に引っ越してきました。大学では外国語学部に所属していましたが、音声学の授業で「失語症の方には漢字よりも平仮名が難しくなってしまう人もいる」という話を聞いて、言語聴覚士という仕事に興味を持ちました。その後、紆余曲折ありましたが、無事言語聴覚士として働き始めることができ嬉しく思っています。よろしくお願い致します。



甲府城南病院 中山 栞（なかやま しおり）

出身地は山梨県甲府市です。栃木県にある国際医療福祉大学で学び、実習先である甲府城南病院に入職致しました。休みの日は出掛けることが多く、特に最近は岩盤浴にはまっており、良い気分転換になっています。慣れないことが多く大変ですが、常に思いやりと笑顔を大切に行動し、頑張っていきたいと思っています。今後も精一杯、知識や技術を吸収していきたいと思っています。ご指導よろしくお願い致します。



国立病院機構甲府病院 小林 尚弘 (こばやし なおひろ)



山梨県北杜市出身で、大学時代より東京で過ごしていました。再び山梨に戻り、改めて自然豊かな土地であると感じました。地元ではありますが、まだまだ知らない事も多いので山梨を知っていこうと思っています。甲府病院は、急性期の患者様や重心の患者様と関わることが多く、毎日が新鮮で勉強させて頂いております。

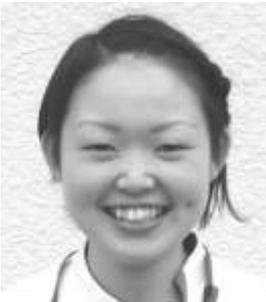
多くの事を学び、患者様に寄り添える言語聴覚士になりたいと思います。
宜しく申し上げます。

巨摩共立病院 西澤 伸 (にしざわ しん)

出身は新潟県です。趣味は何も無いときは、自宅や喫茶店で読書しています。時代小説が大好きです。初めて山梨に来たとき、甲府駅前の武田信玄像大きさに感動しました。いままで県外に出たことがあまりないので、山梨ならではの経験をたくさんしていきたいと思っています。これから宜しく申し上げます！



巨摩共立病院 原田 史佳 (はらだ ゐみか)



出身は東京都です。趣味は読書、格闘技観戦、和太鼓演奏です。
家の窓から見える富士山を毎朝確認するのが日課となっています。周囲を山に囲まれて、四季折々めまぐるしく変化する果物の成長と種類に感動すら覚えます。
一人前の言語聴覚士になれるよう日々努力します。

山梨厚生病院 杉山 順一 (すぎやま じゅんいち)

出身は桃とブドウと花の町でおなじみの笛吹市御坂町の出身です。出身校は国際医療福祉大学です。趣味は家族で旅行すること。最近では子供と一緒に家庭菜園を通じて食育を行っています。山梨に戻る前は、県外の急性期病院で5年間、さまざまな領域の患者様を対象に臨床を重ねてきました。急性期での活躍の場は多くあると思いますので、今後も言語聴覚士の発展に努めたいと思います。



山梨厚生病院 山下 理実 (やました さとみ)



出身は空港のある成田市に近く、落花生で有名な千葉県八街市で、出身校は臨床福祉専門学校です。以前は千葉県内の回復期病院に勤務していました。山梨に来てようやく1年が経ちましたが、まだ知らぬことも多く、同僚や患者様等から様々なことを教わりながら業務を行っています。これから会員の皆様にお世話になることが多々あるかと思いますが、何卒宜しくお願い致します。

湯村温泉病院 高橋 達雄 (たかはし たつお)

他業種から言語聴覚士になりました高橋達雄と申します。出身は、アウトレットのある静岡県御殿場市です。縁あって山梨に来ましたが、これは『見馴れた富士山を反対側から見て、視野を広げなさい』というお告げなのだ、と勝手な解釈をしています。自分自身がアウトレットにならないように頑張ります。ご指導の程宜しくお願い致します。



東日本大震災から4年。福島県を訪れて・・・

しらゆり訪問看護ステーション
藤巻 千春

福島復興支援ツアーも、今年で3年目になりました。今年度は、南相馬市にある復興特区で立ち上げられた「浜通り訪問リハビリステーション」を中心に、小高区の「あすなろ交流広場」、いわき市の「浜風商店街」等に有志8名で訪れました。

福島県に入った瞬間、その景色に全員が言葉を失いました。高速道路には「放射線量」とかかれた看板が立ち、道路脇や田畑には汚染土が入った黒い大きな袋が所狭しと並べられていました。田畑は荒れ、家の庭や道には草が生い茂り、歩行者も、走行車も見当たらない場所がありました。

はじめに訪れたあすなろ交流広場は、福島第一原子力発電所から20km圏内にあり、避難指示解除準備区域に位置しています。そこで働く方は、「この景色があって、放射能がある。これが私たちの日常になった。決してかわいそうな人ではない。いろんな波を乗り越え、泣きわめいて今やっと心がおだやかになった。人の命を脅かす原発がそこにあること、この先進国日本に『避難民』と呼ばれる人達がいることを知り、伝えていってほしい」とおっしゃっていました。

浜通り訪問リハビリステーションのSTの方は、自分に何ができるかわからないが、とにかく福島へ行こうと思い、香川の病院を退職して福島へ来られたそうです。「STとしての仕事はどこにいても同じ、福島の人が温かく自分を受け入れてくれた事が嬉しかった」と話してくれました。

浜風商店街で働く方からは「大きな地震でガラスが割れ、割れたガラスを片付けようとして持った軍手だけを手に、津波から逃げた。津波に家が流され、その後火災が起き、何もなくなってしまった。避難所では、少ない食べ物を皆で分け合っていた。高齢者のおむつが足りず困った。」等、当時の様子を説明していただきました。

震災後にはじめて福島を訪れ、震災の現実を目の当たりにし、何も知らずにいた自分が恥ずかしく思えました。そして、メディアから伝わることのない、様々な人の想いを知りました。2年前にも福島を訪



れた先生方は、復興が進み、変わっていく福島の景色に感動されていました。自然の恐ろしさはあるけれど、その地域で今も生活を送り、その地域を大切にしている人の強さとつながりは尊いものです。

今医療や介護の現場では、しきりに「地域」という言葉が使われています。「地域に生きる」とはどういうことなのか、私自身ができることは何か。少しずつ見出していきたいと思います。福島で、温かく、素敵な笑顔の方々に出会えたことを心から感謝しています。そしてまたこの事実を多くの人に伝えていきたいと思います。



臨床に活かせる音楽療法～基礎と実践～に参加して

甲府公立診療所 天野 絵理



今回、山本久美子先生の講義を受けて、音楽を行なうことの純粋な楽しさ、一体感、気持ちを通じ合う素晴らしさを実感しました。対象児に合わせて、使う音楽の楽器やリズムを選択され、僅かな反応から気持ちを受け止められ、一緒に音楽を作る環境が整えられていました。実際の臨床場面をみせていただき、山本先生の評価に基づいた臨床力の高さに感嘆すると同時に、同じセラピストとしてたくさんのことを学びました。

後半には、様々な音楽楽器に触れ、実際にセッションを行いました。ピンの蓋を広げたものを連ねて回しながら音がするものや洗濯板にゴムを張り、色とりどりのビーズを付けたものなど手作りの楽器もあり参考になりました。山本先生のピアノの音に合わせて、参加者は思い思いに楽器を鳴らし、みんなで作り出す音楽がありました。また、トーンチャイムというキレイな音がする楽器を使い、音階を揃えて音節ごとに行い、合唱を行いました。音楽療法では、各々が役割を持ち、みんなに合わせる事ができ、達成感や充実感を得られると感じました。今回の学びを臨床に役立てていきたいです。

(平成 27 年 8 月 11 日 東公民館にて開催)

救命救急研修会 参加記

湯村温泉病院 岡 大樹

平成 27 年 7 月 25 日、山梨大学で行われた、「救命救急研修会 Basic (成人急変時対応) コース」に参加しました。

今回、医療従事者に合わせた心肺蘇生法の講義・実技が行われ、各項目 5 分刻みの忙しいタイムテーブルの中でしたが、乳児～成人領域まで丁寧にご指導いただきました。

実技では、始めの成人の胸骨圧迫から難しく、コツを掴むまでに時間がかかりました。また、想像以上に力と体力が必要であり、普段ベットサイドや個室でのコミュニケーションリハビリを中心に行っている私にはとても大変でした。さらに、現場を想定したシミュレーションでは、胸骨圧迫・人工呼吸・AED を 3 人交代で行いましたが、各担当と息が合わないことも多々あり、本番だったらと肝を冷やしました。その他、体験用具を用いてのハイムリック法など貴重な経験ができました。

心肺蘇生法は医療現場だけでなく、外出先や家庭などでも必要となる時があるので、今回の研修会をきっかけに定期的に講習を受け、万全に備えておく必要があると感じました。



病院紹介

医療法人 恵信会 恵信グループ

当グループは、療養型病院である「恵信甲府病院」と「恵信りほく病院」を核に、介護老人保健施設の「恵信塩山ケアセンター」、特別養護老人ホームの「恵信ロジェ山梨」と「恵信サテライトロジェ山梨」、介護付有料老人ホームの「恵信ヴィレッタ甲府」、ショートステイや通所リハビリテーションを行える「恵信甲府ケアセンター」と「恵信りほくケアセンター」といった施設を管理運営しています。地域の方々の健康維持と日常生活への復帰を目指して、医療・福祉の相互連携を図り、トータルケアに努めています。

現在、言語聴覚士は恵信甲府病院に3名、恵信りほく病院に4名在籍しています。脳血管障害により急性期や回復期の病院で治療を受けたあと、残存した後遺症の治療を続けるために当院に入院される方や認知症・がん末期の緩和医療を希望される方もおられ、患者様やご家族のニーズに合わせたリハビリテーションを提供することを心がけています。

療養期の病院のイメージというと、患者様の残存機能維持だけに努めるような印象を受ける方もおられると思いますが、当グループでは機能維持を目的とするだけでなく、リハビリテーションを患者様の体調を考えながらできるだけ積極的に行い、残存機能を維持・向上していけるように取り組んでいます。

恵信甲府病院は4月から個性的なメンバーの新人2名（私を含む）が加わり、計3名となり、日々笑顔が絶えない職場となりました。時に和気あいあいと、又時には緊張感のある雰囲気ですが、患者様の機能・能力の維持向上の為に、日々努力をしています。また、私達の最大の活力になる『素敵な笑顔』をもらえるよう一日一日頑張っています。

（文責：恵信甲府病院 坂本楓・磯野朗子）



恵信甲府病院



恵信りほく病院

◆◇◆理事会・各局より◆◇◆

理事会報告

【平成 27 年度 第 1 回理事会議事録】

日 時：平成 27 年 4 月 3 日 18 時 50 分～21 時 30 分
場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
議 長：内山量史

出席理事：内山量史・赤池三紀子・中村晴江・赤池洋
和泉裕二・小池京子、梶原さわか・佐々木蘭子
高橋正和・藤巻千春・保坂みさ・矢澤史帆
吉澤由香、河西祐子

出席監事：深澤有里、望月眞由美

欠 席 者：武井徳子(理事)

<協議事項>

1. 賛助会員にティーアンドケー(株)、株式会社クリニコが承認された。
2. 定時社員総会終了後に賛助会員企業のプレゼンテーションを行うことが承認された。
3. 平成 27 年度基礎講座の講師が決定した。

<報告事項>

1. 各部の活動報告、定時社員総会議案書の最終確認を行った。

【平成 27 年度第 2 回理事会議事録】

日 時：平成 27 年 5 月 22 日 18 時 50 分～20 時 40 分
場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
議 長：内山量史

出席理事：内山・赤池三・中村・赤池洋・和泉・梶原
佐々木・高橋・保坂・吉澤・河西

出席監事：深澤、望月

欠 席 者：小池、武井、藤巻、矢澤（以上理事）

<協議事項>

1. 各部の出納記録は前月分を翌月 5 日までに小池理事へ提出することが承認された。
2. 県士会 NEWS 第 32 号の企画案が承認された。
3. 第 8 回学術大会日程、会場、実行委員会編成に関する案が承認された。チャリティーバザーの実施が決定した。

<報告事項>

1. 会員動向、会費納入状況、法人税の納付について報告された。
2. 各部の活動が報告された。
3. 一般社団法人山梨県理学療法士会交流会、山梨県リハビリテーション病院・施設協議会平成 27 年度定期総会への出席が報告された。

【平成 27 年度 第 3 回理事会議事録】

日 時：平成 27 年 6 月 19 日 18 時 40 分～21 時 20 分
場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
議 長：内山量史

出席理事：内山・赤池三・中村・赤池洋・和泉・梶原
小池・佐々木・高橋・藤巻・矢澤・吉澤・河西

出席監事：望月

欠 席 者：武井、保坂（以上理事）、深澤（監事）

<協議事項>

1. 会報等の配送方法については、事務局がクロネコ DM 便と契約し窓口となることが承認された。
2. 山梨県リハビリテーション専門職団体協議会設立後は HP に専用ページを設けることが承認された。
3. 県士会名入り封筒を各 1,000 枚（角形 2 号、長形 3 号）作製することが承認された。
4. 介護職場人材育成研修講師が決定した。
5. 山梨県地域リハビリテーション従事者研修会委員が決定した。
6. 学術大会運営規約が提出され承認された。

<報告事項>

1. 各部の活動が報告された。
2. 3 士会合同意見交換会、一般社団法人山梨県作業療法士会新入転入者歓迎会への出席が報告された。
3. 第 8 回学術大会の概要が説明された。

【平成 27 年度 第 4 回理事会議事録】

日 時：平成 27 年 7 月 17 日 18 時 40 分～20 時 40 分
場 所：春日居サイバーナイフ・リハビリ病院
議 長：内山量史

出席理事：内山・赤池三・中村・赤池洋・和泉・梶原

小池・佐々木・高橋・保坂・矢澤・吉澤・河西

出席監事：深澤

欠 席 者：武井、藤巻（以上理事）、望月（監事）

<協議事項>

1. 第 8 回学術大会抄録集の印刷方法、ならびに送付先が決定した。予算案に関しては、県士会拠出金と参加費を収入とすることが承認された。

<報告事項>

1. 各部の活動が報告された。
2. 福島県復興支援事業、「第 20 回山梨県失語症者のつどい」の経過が報告された。
3. 山梨県訪問リハビリテーション協議会、第 8 回学術大会実行委員会より経過報告がおこなわれた。

書 記：江川恵、安富朋子
議事録作成：河西祐子

各局からのお知らせ

事務局

<総務部>

「平成27年9月 関東・東北豪雨に関する義援金募集のお願い」に対し、19施設より、総額83,500円の募金が寄せられました。お預かりした義援金につきましては、10月6日付で全額、一般社団法人茨城県言語聴覚士会に寄付させていただきました。皆様の温かいお気持ち、ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

社会局

<職能部>

- ・社会局主催「認知症サポーター養成講座」を8月7日東公民館にて開催しました。
- ・今年度の東日本大震災復興支援福島復興支援事業が9月26、27日に決定しました。今回は4月からSTも常勤体制となった南相馬市「浜通り訪問リハビリステーション」の見学が主目的でしたが、依然原発の影響が大きい震災当時を引きずっている小高地区と2年前にも訪問したいわきなども見学できることとなりました。
- ・一般社団法人山梨県民間病院協会PT・OT・ST部会研修会が、10月16日スコレーセンターにて開催されました。
- ・訪問リハビリテーション協議会実務者研修会が、10月17、18日に大木記念ホールにて開催されました。

<地域部>

山梨県失語症者のつどいが20回を迎え、今回は記念大会を開催します。11月28日(日)10時~15時、甲州市レストランシャンモリの予定です。地域でいきいき生活されている失語症の方々との交流から私達STに求められる役割を再考する機会にしたいと思います。今回多くのSTには実行委員として多大な協力をいただいておりますが、当日のボランティアも募っておりますので、多くの方々のご協力をお願い申し上げます。

学術局

平成27年度前期の学術局主催の講演会・研修会には多くの会員皆様のご参加をいただき、ありがとうございました。後期もより充実した生涯学習プログラムを提供していきたいと思っております。ご参加をお待ちしております。

<学術部>

講演会(4回/年) 生涯学習基礎講座(4講座/年)
《活動予定》
*第3回 学術講演会 ※活動支援補助金対象講演会
日時:平成27年12月3日(木)18:30~
会場:ぴゅあ総合 大研修室
テーマ:構音障害の評価と訓練について(仮)
講師:中山 剛志 先生
日本福祉教育専門学校 言語聴覚療法学科学科長)

<研修部>

症例検討会(偶数月・第3木曜日)
小児領域勉強会(奇数月・第2土曜日)
《活動予定》
*第5回 症例検討会
日時:平成27年12月15日(火) 18:30~21:00
会場:甲府市東公民館
発表者:岡 大樹 先生(湯村温泉)
バイザー:桂川 謙祐 先生(甲府城南)
スーパーバイザー:中村 晴江 先生(甲府城南)

<教育部>

新卒者研修会(6回/年)
《活動予定》
*第5回 新卒者研修会
日時:平成27年11月4日(水)18:30~21:00
会場:東公民館 地域集会所
テーマ:SLTA グループ演習(表出面)

広報局

会員の皆様のご協力もあり「言語聴覚士」の仕事だけではなく当土会の活動が一般の方々や他団体の方々に知って頂けるようになっていきます。今後もより一層、広報活動に努めていきたいと思っておりますのでご協力宜しくお願い申し上げます。

<広報部>

「いきいき山梨ねりんピック2015」が9月26日(土)、甲府市小瀬スポーツ会場をメイン会場で開催され3土会合同で参加しました。例年以上に多くの方々各土会のブースに来ていただき、大盛況で終えることができました。ご協力を頂きました会員皆様に感謝申し上げます。また、来年度も参加予定ですので、ご興味のある方はご協力を宜しくお願い申し上げます。
広報部では広報グッズ(リーフレット、パネル、のぼり)の貸出を行っております。ご希望の方は広報部部長赤池までお問い合わせください。

<ホームページ管理部>

- ・会報Web版第32号が掲載されました。ホームページ上でも閲覧下さい。
- ・県内の3土会合同研修会・講演会などのイベント情報を随時掲載してまいります。言語聴覚士協会関連のイベント情報を当ホームページでも掲載してまいります。是非御活用下さい。
- ・第8回山梨県言語聴覚士会学術大会のご案内を掲載しました。今後、内容の詳細が決まり次第更新致します。
- ・会員からの推薦図書と臨床上の工夫を、隔月で更新しております。日々の臨床にお役立て下さい。

<会報編集部>

- ・第33号 平成27年11月発行
- ・第34号 平成28年2月発行予定

11月は霜月といい、霜が降る月である事が語源だと言われています。その名の通りめっきり寒くなり冬の気配を感じるようになってきました。さて、今号の県士会ニュースには新会員紹介を掲載しております。皆さんのフレッシュな顔つきをみて「初心忘れるべからず」という言葉を思い出しました。あの頃の緊張感や向上心を思い出し、気を引き締めて毎日の臨床に臨んでいきたいと思えます。ときに、あの東日本大震災から4年半が経ちました。人々の記憶からあの時の出来事の風化が叫ばれていますが、依然として多くの方が支援を必要としています。支援を継続する事の難しさ大変さを感じています。県士会の福島での支援活動の記事が掲載されていますので是非御一読ください。

一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース

<発行所>一般社団法人山梨県言語聴覚士会

<発行人>内山量史

<編集>一般社団法人山梨県言語聴覚士会広報局会報編集部

石和温泉病院：坂井隆一

石和共立病院：鈴木千裕

一宮温泉病院：倉島雪乃

甲州リハビリテーション病院：武井徳子

甲府城南病院：中村晴江、廣瀬由紀

白根徳洲会病院：清水菜月

市立甲府病院：丸井章子

山梨リハビリテーション病院：小松富美子

湯村温泉病院：山城瑛規

<事務局>春日居サイバーナイフ・リハビリ病院言語療法科内

〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府436

TEL0553(26)4126 FAX0553(26)4366